

テーマ

交渉における情報戦略

適用
分野

交渉ゲーム理論。情報の経済学。メカニズム・デザイン論。



研究
名称

非協力交渉ゲーム理論による提携形成戦略・情報戦略考察。不完備情報コアを実現するメカニズムデザイン

氏名
所属

宮川敏治 教授
経済学部 経済学科

内容

●特徴

これまで誰と協力するか（提携形成）と協力の利益をどのように分けるか（利得配分）を考察する非協力提携交渉ゲーム理論の研究を行ってきた。混雑やキャパシティ制約があるような提携利益の非優加法性の問題や提携の外部性の影響の研究でいくつか研究成果をあげることができた。さらに、この理論を自由貿易協定や企業組織のデザインに応用した研究も行った。現在、交渉ゲーム理論における不完備情報の重要性に注目し、以下の研究を行っている。

①交渉における情報戦の考察：交渉過程での提案・応答が他のプレイヤーに見えることの影響（情報の透明性の問題）。提携プレイヤー間での情報共有の問題。

②提携逸脱が存在しないような配分ルール（メカニズム）の考察：不完備情報での安定マッチング。不完備情報コアと非協力交渉ゲーム。

③不完備情報の存在に注目したメカニズム・デザイン（マーケット・デザイン）の考察：財の品質に関する私的情報と不可分財配分（家配分 House allocation）メカニズム。学校選択マッチング・メカ

ニズムの安定性に注目した公理的特徴づけ。

●研究内容

①については「非協力交渉ゲーム理論による価格・競争・情報戦略の研究」として科研費・基盤研究Cの援助を受けて研究を行っている。現在、交渉過程における価格交渉の提案の可視性(transparency)に関する研究を進めている。

②については、“The farsighted core in a political game with asymmetric information”として所得の不平等と政治力と安定性の関係を考察した論文をSCW, 2018に発表した。現在、新たな不完備情報での安定性に関する理論を考案中である。

③については、財の品質の私的情報が家配分のメカニズムに与える影響を考察した論文が“Ex-post incentive compatible and individually rational assignments in housing markets with interdependent value”としてJME, 2020に発表される予定である。加えて、学校選択マッチングでのDAメカニズムとTTCメカニズムの公理的関係を探る研究を行っている。

キーワード

Bargaining game; coalition formation; incomplete information; stable mechanism.

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究